

JOCV 千葉 OB 会報

2010 夏
2010年6月
No.82

JOCV 千葉 OB 会

■ホームページ: <http://www.jocvchiba.net> ■発行責任者: 森 永吉(青年海外協力隊千葉 OB 会会長)

1. 会長挨拶

はじめまして、このたび OB 会会長に選出されました森 永吉(62年3次隊 ポリヴィア 野菜)と申します。

期の途中での改選で、心の準備もなく自分自身もこれから千葉 OB 会をどのように運営していけばよいのか暗中模索、五里霧中状態です。

現状をお知らせいたしますと、ここ何年かは帰国隊員も積極的には寄り付かず、帰国報告会、家族連絡会の発表者の選出も大変なこともありました。

参加するスタッフはいつもおんなじ顔ぶれで代わり映えせず、JOCA との共同事業の実施も四苦八苦で一部の OB/OG に負担がかかるばかり……、暗い話ばかりです。

もし、もっと暗い話をお聞きになりたい方がおいでになりましたら、定例会の後に反省会が開かれますのでその際にしっかりと聞かせていただけますのでお越しく下さい、参加費は自己負担ですが……。

もっとも、協力隊 OB といっても一枚岩ではないことも、いろいろな個性の集まりが協力隊でもあることは理解していますので、千葉県在住、在職だから OB 会へ参加してくださいというのも無理からぬ話かもしれません。

こんな中、一隻の船が3年間の航海に船出します。船はぼろぼろ、航海技術も未熟ですが、協力隊特有のタフさと根柢のない自信だけをもって船出します。

この3年間でボロ船を改修しながら、アニメのワンピースさながらに仲間を増やしながら航海を続け、3年後帰港するときには小さくてもかまわないので船団の旗艦になって、皆さんの方から乗船させてくれと言ってもらえるような OB 会にしていきたいと考えています。

OB 会の皆様には、いろいろなご支援をお願いするためにも、魅力ある OB 会を目指して活動を進めていきますので暖かく見守り下さい。



目次

1. 会長挨拶 森 永吉
2. JICA 千葉デスク国際協力推進員の紹介
～平成 21 年度・22 年度の活動を紹介します～
3. 平成 22 年度 協力隊まつり
4. 平成 22 年度 千葉県海外協力隊を育てる会設立総会
5. 平成 22 年度 1 次隊杜行会
6. 平成 21 年度 応募促進キャンペーン 千葉キャラバン
7. 平成 21 年度 グローバルフェスタ Chiba 2009
8. 平成 21 年度 聞こう話そう協力隊～帰国隊員報告会～
9. 平成 21 年度 グローバルフェスタ JAPAN2009
10. 平成 21 年度 JICA ボランティア秋募集説明会
11. 平成 21 年度 JICA 国際協力エッセイコンテスト 2009
12. 平成 21 年度 秋のわいわいフェスティバル
13. 平成 21 年度 JICA ボランティア家族連絡会
14. 平成 21 年度 千葉県協力隊を育てる会準備会交流会
15. 平成 21 年度 関東ブロック会議(山梨)
16. 平成 21 年度 杜行会・県庁表敬訪問
17. 平成 21 年度 行事予定

2. JICA 千葉デスク国際協力推進員の紹介

千葉県出身の協力隊OBOGの皆さま、こんにちは。

4月にJICA千葉デスク国際協力推進員に着任いたしました明石絵里子と申します。私は今年1月まで中央アジアのキルギス共和国でJOCV青少年活動隊員として活動しておりました。キルギス共和国は中央アジアのスイスと言われるように、水資源が豊富で3000メートル級の素晴らしい山々で囲まれた国です。日本での知名度は非常に低いですが、キルギスでは「日本人とキルギス人は元々兄弟だった」という話が有名です。肉を好む者が西へ、魚を好む者が東へと移動していったのだと、日本人とそっくりな顔つきのキルギス人が力説するので納得してしまいます。

そんな国キルギスで、私は日本文化紹介のイベントの企画・運営に携わっていました。中でも盆踊り大会は国境もお金の有無も関係なく誰もが笑顔で踊ることができるイベントとして大変盛り上がり、その感動が今でも胸に焼き付いています。

今後はJICA千葉デスクとして青年海外協力隊OB会の皆様と協力しながら、千葉県出身のOBOGの皆さまへ帰国後の温かいお手伝い出来る様努力していく所存です。どうぞ末永く宜しくお願い致します。



3. 平成22年度 第4回協力隊まつり

日時:平成22年4月3日(土)、4日(日)

会場:JICA地球ひろば(国際協力機構広尾センター)

平成17年10月に開催された「JOCV発足40周年記念ボランティアフェスタ」をきっかけにスタートした「協力隊まつり」も今年で4回目を迎えました。ボランティアに興味がある方、参加したい方を応援するためのイベントとして開催され、会場には国別・職種別・各都県のOB団体が集まりました。

JOCV千葉OB会も第1回から継続して参加しています。今回は、昨年10月のグローバルフェスタ JAPAN2009に引き続き、カーネーションなどの生花とスリランカの手芸品を販売しました。生花はコロンビアやインドなどから取り寄せたもので、中には珍しい花もあり、訪れた方々から興味を持っていただけましたようです。スリランカの手芸品は、NPO「APCAS」が企画し、スリランカ人スタッフも商品開発・市場開拓に当たり、制作も彼ら自身が行なっています。

今回は4月初旬で肌寒い気候であったためか、人出は今一つ振るわず、売上げも期待どおりに伸びませんでした。しかし、ブースを訪れた協力隊参加を希望する方々や、久しぶりに顔を合わせたOB同士の会話があちこちで聞かれ、和やかなうちに行事を終えることができました。



4. 平成 22 年度 千葉県海外協力隊を育てる会設立総会

3年ほど前から準備が進められてきました『千葉県海外協力隊を育てる会』の設立総会が平成 22 年 6 月 13 日(日)に千葉市のホテルミラマーレ6階ローズルームにて開催されました。

留守家族が母体になり設立準備が進められてまいりましたが、設立総会にて規約・予算案が承認され無事設立、全国で 41 番目の県組織として誕生しました。

同会は会長も含め理事の多くが以前、留守家族だったこともあり協力隊への理解も深く、OB 会との連携した活動を通して、千葉県にゆかりのある派遣中の協力隊を含む JICA ボランティアや帰国隊員への支援活動がより活発になることが期待でき、OB 会としても積極的に共同事業等に積極的に参加していく予定です。



5. 平成 22 年度 1 次隊壮行会

平成 22 年度 1 次隊 青年海外協力隊 21 名、日系青年 4 名

今回 1 次隊壮行会は、『千葉県海外協力隊を育てる会』の設立総会にあわせて行いました。



壮行会 6月13日



県庁表敬 6月18日

6. 平成21年度 応募促進キャンペーン 千葉キャラバン

社団法人青年海外協力協会からの広報でご存知の方も多いと思いますが、JOCAによる全国応募促進支援キャンペーンの一環「キャラバン隊」が、千葉県の全市町村の首長を表敬訪問しました。

7月9日に県庁で行われた出発式では、キャラバン隊の高橋さん(千葉県キャラバン隊長)・緑川さんをはじめJOCA金子会長や千葉OB会から多くのOB/OGが参加し、石渡副知事に激励の言葉を頂きました。その盛大な出発式のもと発車した地球色の青いキャラバンカーは、8月27日までの約2ヶ月間県下を走り回りました。

千葉県出身の隊員OB(常時2名)のキャラバン隊員を中心として、地域のOB・OGと連携しながら千葉県庁をはじめ、県内各市町村を表敬訪問し、協力隊の歴史・活動の報告・説明や、地域で活躍しているOB・OGの紹介を行いました。各首長達は熱心に耳を傾け頂き、応募者の増加・帰国隊員の地域への還元等について、議論を重ね協力を求めることが出来ました。派遣中隊員への熱い応援メッセージなども書いて頂いたり、夏よりも熱いキャラバン隊でした。

なお、キャラバン終了後、高橋キャラバン隊長より県内キャラバンに使用した千葉OB会ロゴ入りスタッフTシャツをOB会へ寄付頂きました。(報告者:崎山)



7. 平成21年度 グローバルフェスタ Chiba 2009

日時:8月23日(日) 10:00-16:00

場所:千葉大学 けやき広場・生協食堂 他

千葉大学のけやき会館で行われるこのイベントは、今年で三年目を迎えます。千葉OB会のブースではスリランカの物品販売、協力隊活動のパネル展示などを行いました。場内には千葉県の国際交流団体のブースが多数立ち並んでいるので、差別化を図るのは大変だな、と正直思いました。しかし、さすが協力隊。「実は私も隊員でした」という人が積極的に立ち寄ってくださり、帰国隊員の交流の場としての大きな役割を果たしていました。国際協力に関心のある方に、何らかのメッセージが届いていたら幸いです。(報告者:安藤)



8. 平成21年度 聞こう話そう協力隊 ～帰国隊員報告会～

千葉OB会では、「聞こう話そう協力隊」と銘打って、帰国隊員報告会を行っています。
本年第一回目の開催を以下のとおり実施しました。

日 時：2009(平成21)年9月5日(土)14:15～

場 所：京葉銀行文化プラザ

帰国報告者：藤田 恵里 18年1次隊 ヨルダン 理学療法士

佐藤 久卓 18年3次隊 ガーナ 村落開発普及員

参加者(OBを除く)：18名

■H18-1 ヨルダン・ハシミテ王国 理学療法士 藤田 恵里OG

ヨルダン・ハシミテ国の国の紹介から始まって、隊員活動の報告をして頂きました。

イスラムへの協力隊への参加による女性隊員としての派遣で、衣食住や職場での活動において、文化・風習の違い等いろいろな意味での異文化体験をとおし、たくましく活動されて来た内容が画像と共に語られ、会場の参加者と一体となった体験共有が図られた。また活動の状況を聞く言葉の合間に隠された苦勞を感じ取って頂いていた様子でした。

また、帰国後協力隊経験をさらに活かすべく千葉の植草学園大 保健医療学部 理学療法学科に従事しながら協力隊での海外活動の経験を活かし、後輩の育成や異文化での理学療法の活動について教鞭を取られています。



■H18-3 ガーナ共和国 村落開発普及員 佐藤 久卓OB

西アフリカで最初の独立国ガーナの<トロン村>という村落に村落開発普及員として赴任の佐藤OBの活動発表は国の紹介から始まって、トロン村という首都よりかなり離れた小さな集落の事情を説明し、村落開発という職種にとらわれず村の方々との交流や何も無いところでの飲み水等水の確保から始まるマラリア対策やコンピュータの講義 盗難対策等有りとあらゆる内容を日常的な現地の方々と食住を共にした協力隊の真髄とも言える活動内容での報告を現地の踊り等の動画も駆使したプレゼン資料にまとめられ発表をされていました。参加の方々への説明もマラリアにかかった体験などを交えお話しされていましたが、決して危険というような印象ではなく、実際派遣中の隊員の家族の方々からも信頼の出来る情報として受け止められていたようです。

なお、二本松訓練所に入所直前のH21年3次隊ガーナ派遣候補生の方々の参加もあり、有意義な良い雰囲気での発表でした。帰国後は、前職に復帰され協力隊での2年間の海外生活・活動の経験を活かして職場でご活躍中です。



■ 藤田 OG 佐藤 OB とのパネルトーク

前回の「聞こう話そう協力隊 in Chiba」より、帰国隊員の方々の活動発表のあとに発表者の方々と吉田がパネルディスカッションを実施しています。

今回はヨルダン理学療法士派遣の 藤田 OG と、ガーナ村落開発派遣の佐藤 OB とに、協力隊へ応募動機、任国・現地での異文化体験、日本と環境の異なる外国での衣食住、職場や一緒に活動する現地の方々を通じた

経験等詳細な中身を個々の確認する等、活動の内容を細かく会場の参加の方々の質問も交え実施したことにより協力隊のナマの実態、本音のところや現地の詳細な実態が発表のお二人から聞け参加の方々からも評判が良かったと思います。

■今後の取り組みのために

今回は留守家族の方々、訓練前合格者、地域新聞社、市町村国際交流協会役員の方等多彩な参加者が来られ有意義な報告会(発表会)となりました。



終了後に参加者からアンケートと取りましたので結果を報告します。(報告者:吉田 アンケート取りまとめ:田村)

アンケート結果:

■今後の取り組みのために、みなさまの率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

- 21年3次隊でガーナに行くものです。ためになりました。[30代・男性]
- 今日の体験談を聴いて、お二人共、2年間では足りなかったような感を受けました。実際2年間では指導をする上で不足と思います(私だけかも)。3年間ぐらいは(最低でも)指導に当てることが出来たら、現地スタッフも助かるのではと感じ入りました。何れにしてもご苦労様です(皆さん)。[50代・男性]
- 11月に家族会があると思いますが、楽しみにしています。[50代・女性]
- 現地での活動が良く解りました。娘も同じようがんばっている事だと思いました。帰国のことについてもう少し話が聞けたら良かったです。ありがとうございました。[50代・女性]
- 大変なお仕事をしている様子がわかりました。異文化の中に入って自分の知識や技術を伝える事はむずかしいと思いました。[50代・女性]
- ①ヨルダン、理学療法士、藤田さんの話は、国情、宗教、社会の異なった事情、仕事のやり方、日本へ帰ってから日本の福祉に対する見方が変わったこと。興味ある内容であった。②ガーナ、村落開発、佐藤さんの話は、アフリカの現状、インフラ不足、水源調査、地図の作成などの外、コンピューター授業、クイズによる保健衛生啓蒙の話が興味あった。<トロン村>の音楽入りスライドショーも面白かった。準備が大変でしょうが、この種の催しの機会を多くして、JICAボランティア活動を多くの人に知ってもらえることを期待したい。発表者も多くしたい。[60代・男性]
- 聞こう話そうの企画は、自分の子供が協力隊に参加しています上で、非常によかったと思います。[60代・男性]
- 本日、帰国講演をされた藤田さん、佐藤さんのお話を伺って、我が子が現在赴任している地で、御2人の様にしっかりと任務を遂行しているのかしら…と心配(むしろ不安)になりました。[60代・男性]
- パネルディスカッションで具体的な質問により、かなり本音を聞かせてもらった。⇒質問時間がたっぷりあったことが良かった。[60代・男性]
- 大変参考になりました。[50代・男性]
- たくさんの隊員の話が聞きたかったです。[50代・女性]

■ その他、開催してほしい催しなど、ご自由にお書きください。

- 日本と違う生活をしている子供の事が心配です。現地でお話を聞かせてほしいです。[50代・女性]
- 帰国報告会、国際フェスティバルの参加などを通じて、青年海外協力隊の活動の紹介・PRは必要とされることと思う。[60代・男性]

- 現地視察についての事前説明をお願いしたい。[60代・男性]

・報告会参加者

■参加者の性別・年齢・職業

- ・男性:7、女性:5、計:12 (20代:0、30代:2、40代:0、50代:6、60代以上 4、計:12)
- ・学生:0、会社員:1、公務員:1、教員:0、団体職員:1、主婦:4、自営業:1、NPO・NGO:0
- その他:3(JICA シニアボランティアの会、無職、国際交流協会会員)、未解答:1、計:12

■ この催しをどのようにして知りましたか？(該当するものに○をつけてください)

案内葉書:8、インターネット:2(合格者コミュニティサイト)、メールリスト:1、
グローバルフェスタちば 2009 で:1 計:12

9. 平成 21 年度 グローバルフェスタ JAPAN2009

グローバルフェスタとフェアトレード商品

皆さんは『フェアトレード』という言葉を知っていますか。

直訳すれば『公平な貿易』ですが、対話、透明性、敬意を基盤とし、より公平な条件下で国際貿易を行うことを目指す貿易パートナーシップを基本とした新たな貿易の形として始まった運動のことです。

特に「南」の弱い立場にある生産者や労働者に対し、より良い貿易条件を提供し、かつ彼らの権利を守ることにより、フェアトレードは持続可能な発展に貢献することを目的としています。

その概要は下記の 5 項目を保証することを遵守することになっています。

1. 生産者へのフェアトレード価格を保証
2. 生産者の社会的な発展を保証
3. 生産者の経済的な発展を保証
4. 生産者の労働環境と労働条件を保証
5. 生産地の環境保全を保証

詳細は下記 Web ページを参照してください。

特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) <http://www.fairtrade-jp.org/>

世界的にはコーヒー、バナナ、茶類が主要な取扱品目ですが、日本でもやはりコーヒーがよく知られているようです。

千葉 OB 会ではグローバルフェスタ JAPAN2009 に参加し、日本の NPO APCAS が取り扱うスリランカからの手工芸品(バナナの葉を原料とした紙製品と麻の小物入れ等)の販売と、フェアトレード商品の中であまり一般的ではない『切花』を少しでも普及できたらと考えて紹介、販売をさせていただきました。

正式に FLJ の認証をうけて HP 上で紹介されているケニア産の 3 社の生産者のバラのみですが、花業界ではコロンビア産のカーネーションもフェアトレード商品として取り扱われています。

OB 会では広義に解釈をして途上国からの『切花』も併せて紹介させていただきました。

あいにくケニアからのバラの入荷がなかったため、フェアトレード商品としてはコロンビア産カーネーションと途上国からの切花としてタイ産デンファレ(ラン)、エクアドル産バラなどを紹介、販売をいたしました。

切花は初めての取扱いのため、反省を多々残す結果でしたが、会場では文字通り華やかな展示で他ブースより目



立つ存在となっていました。

スリランカからの手工芸品も途上国からの切花も広い意味ではフェアトレード商品と捉え、今後とも機会があることに紹介活動を続けていきたいと考えます。

得られた利益部分は他の行事での利益と共に、小さなハートプロジェクトへの寄付を検討いたします。(報告者:森)

10月3日(土)売上げ

生花… 13,910円
スリランカ商品… 1,300円 合計 15,210円
※古切手の販売は悪天候のため行ないませんでした。

10月4日(日)売上げ

生花・古切手 … 23,850円
スリランカ商品 … 18,400円 合計 42,250円

二日間合計 57,460円(売上げ合計)

10. 平成21年度 JICAボランティア秋募集説明会

10～11月、千葉、船橋、柏、幕張で募集説明会が行われました。受付業務を担当する傍ら、個々に体験談を求められることもありました。痛感したのは、体験談としての個人的な感想と、協力隊制度の説明は、きっちり線引きをすることが必要だということ。なぜなら制度面は年々変化しているからです。つい自分の体験を熱く語ってしまいがちですが、制度面については冷静に、JOCAの職員に対応に委ねることも必要だと思いました。

参集者の、まっすぐな視線を目にするたび、自分自身の生き方を問われているような気がします。協力隊の経験をどう生かしているのかと。この緊張感を大事にしながら帰国隊員であることの意味を模索し続けたいと思っています。(報告者:安藤)

11. 平成21年度 JICA国際協力エッセイコンテスト2009

例年同様、本年もJICA主催の2009年エッセイコンテスト中学生の部について、千葉県内応募作品の1次審査を9月末から10月末にかけ、県内OBの方々を中心に審査頂きました。

今年は、県内応募作品が2,000通を超えた昨年に比べ約1割ほど少ない1,824通の応募作品から約1割の18通を選ぶ1次審査を行いました。千葉県内応募総数をその選ばれた自宅審査審査員に志願して頂いたOB、OGの方々人数分(審査員約10名)に割り振り約1割の作品を選んで頂き、さらに審査員全員が集まり1次審査の選出作品数の18作品を選んで頂き千葉県の代表として2次審査に向け返送いたしました。

また、今年より前年までJOCA会長賞として各都道府県一作品に贈られていた賞が廃止の危機に至ったのですが、JOCA賞と名前を変え残り、各都道府県OB会の代表審査員別審査で選ばれるように変更となりました。

千葉での2009年の審査は、次表の参加者名簿にもありますように、新人の方々が数名参加され、また、展示イベント以外の参加の方々が数名と通常のOB会活動に参加されない方々の参加が有りバラエティーに富んだ審査員構成となっています。このようなことからぜひいろんな方々がOB会活動に参加できる貴重な活動方法として活用して行きたいと考えています。毎年の事ながら応募作品に接して(読ませて頂いて)いると、読んで行くうちにいろんなことを作品から学ばせて頂きました。

1次審査で選出された千葉県作品が今後の審査でより良い成績を収められますよう応援して行きたいと思えます。(報告者:吉田)



JICAエッセイコンテスト 中学の部 自宅及び集合審査員参加のOB・OG

氏名	隊次	派遣国	職種
狩野 亜紀	10-2	ケニア	バレーボール
栗林 徹	8-1	ベトナム	日本語教師
安藤 泰子	6-3	シリア	日本語教師
寺木 茂	5-3	パナマ	建築施工
崎山 篤	16-2	ブルガリア	公衆衛生
木野本 まゆみ	13-3	カンボジア	音楽
田村 聖子	3-3	スリランカ	手工芸
鈴木 由香	13-2	インドネシア	栄養士
早川 晶子	16-1	パナマ	コンピュータ技術
関根 晴美	6-2	ケニア	土木
西村 直樹	19-1	マーシャル	理数科教師
高橋 淳	18-3	パナマ	村落普及開発員
中島 太一	15-1	チリ	バレーボール
森 永吉	62-3	ボリビア	野菜
玉城 均	9-3	マレーシア(東)	造園
吉田 憲司	2-1	ボリビア	搬送

12. 平成21年度 秋のわいわいフェスティバル

昨千葉県少年自然の家の「秋のわいわいフェスティバル」の「国際交流」コーナーに参加
 期日：平成21年10月25日 於：千葉県少年自然の家(長柄町針ヶ谷)

千葉県少年自然の家が主催する秋のイベントのひとつ、「秋のわいわいフェスティバル」の「国際交流」コーナーに参加しました。

OB会のブースでは、JOCVを中心にJICAボランティアの紹介のため、パネル展示と関連資料の配布を行いました。また、併せてNPOが扱っているスリランカの手作りクラフト類、タイ山岳民族の小物の即売を行いました。

当日は、元気な小学生と付き添いの父兄、学生ボランティアが来場し、ステージイベント、お祭りコーナー、地元農産物、食べ物、国際交流、自然体験プログラムを楽しみました。朝からの雨模様と寒さで、例年より来場者が少なかったようです。

OB会のボランティアの紹介については、小学生にはちょっと内容が難しかったようで深く興味を示すまでは行かなかったようですが、このような活動があることは、広報できたかと思います。学校の先生や国際交流関連の団体の若者などが、興味を示してくれました。クラフト類の販売については、女性を中心に好評でした。少し、海外に関心を持ってもらえたことでしょう。(報告者：林)



13. 平成 21 年度 JICA ボランティア家族連絡会

千葉県から JICA ボランティアとして派遣されている御家族を招いての千葉県 JICA ボランティア家族連絡会が 11 月 3 日に行われ、JOCV 千葉 OB 会も協力しました。

今回は 25 家族 39 名の、19 名のボランティア OBOG、合計で 66 名の参加がありました。

御家族の不安を軽減する目的で実施されている本連絡会ですが、ボランティア事業や帰国後の進路についての説明や、(社)協力隊を育てる会より視察の旅などの説明があり、青山真弓さん(パラグアイ・看護師)が青年海外協力隊 OB を代表し、活動報告を行いました。その後の懇談会では各テーブルで御家族と OB との会話が弾み、終了時刻を延長して行いました。(報告者:木野本)



14. 平成 21 年度 千葉県協力隊を育てる会準備会交流会

～千葉県青年海外協力隊の支援をめざして～

昨年度に引き続き、2009年11月14日(土)午後2時より、千葉市国際交流協会 会議室において、千葉県在住の「協力隊を育てる会」会員の交流会が行なわれました。千葉県協力隊を育てる会(仮称)設立準備会および(社)協力隊を育てる会の主催で開催され、隊員のご家族、設立準備会員など 40 名余りの方々が集いました。

最初に設立準備会の田中代表世話人よりご挨拶があり、続いて協力隊を育てる会の青木副会長より「はばたけ千葉県協力隊！」と題してご講演をいただきました。その後、隊員ご家族の小坂さんより、協力隊現地活動視察の旅への参加報告があり、任国ケニアでの我が子の活動の様子や暮らし、旅での驚きや感動をお話いただきました。

後半は、協力隊を育てる会より会の活動について説明があったのち、千葉県協力隊を育てる会(仮称)設立準備会より、設立に向けた呼びかけが行なわれました。青年海外協力隊をはじめとする国際ボランティア活動を支援するとともに、帰国隊員の知識・経験を地域社会に還元し、国際理解・国際交流の促進の一助とするといった設立趣旨の説明があり、多くの方々の参加を呼びかけられました。(報告者:田村)



15. 平成21年度 関東ブロック会議(山梨)

11月21日(土)、22日(日)の二日間にわたって開催された JOCA 関東ブロック会議に、吉田さん、崎山さん、高庄の3人で泊り込みで参加してきました。今年の開催県は山梨、河口湖や西湖から近く富士山が大きく見える気持ちのよい環境の中、関東(+新潟)のOB会、JICA、JOCAからの出席者が、OB会のあり方や活動について、意見交換、討議を行いました。各県OB会の活動紹介などを聞くと、OB会の運営は一部コアメンバーの献身的な活動によって成り立っているところが大きかったり、ボランティア家族連絡会その他の行事における、JICA、JOCAとの協力のあり方、過去OB会で工夫を凝らしながら手弁当でやってきたこととのバランスのとおり方、など、似たような課題を抱えているものだと思います。討議そのものも重要ですが(もちろんこちらが、ブロック会議の第一の内容となりますが)、それと同時に、一年に一度こうして初めて会うような人たちが集い、協力隊OB・OGというゆるいつながりの中、仲間意識を持って(仲間意識を持ちつつ、立場、年齢その他いろいろな違いがあって)いろいろな話をできる、貴重な機会だとあらためて思いました。山梨県のOB・OGがブロック会議の裏方として、一生懸命に会を運営してくださっているのを見て、千葉県で開催された2年前に私たちも飯岡でバタバタとやったなあ、というのを懐かしく思い出しました。来年は群馬県で開催される予定です。ブロック会議未体験のOB・OGの方、ぜひ来年は一緒に！(報告者:高庄)



16. 平成21年度 壮行会・県庁表敬訪問

OB会では新隊員の赴任前に壮行会と県庁表敬訪問同行を行っています。

壮行会では、新隊員とOBが任国の話題や活動の話題で毎回時間を忘れて語りあっています。

1. 平成21年度2次隊 14名
壮行会:平成21年9月12日 県庁表敬訪問:平成21年9月16日
2. 平成21年度3次隊 23名
壮行会:平成21年12月19日 県庁表敬訪問:平成21年12月18日
3. 平成21年度4次隊 16名
壮行会:平成22年3月20日 県庁表敬訪問:平成21年3月18日



21年度2次隊



21年度3次隊



21年度4次隊



21年度4次隊 懇親会

17. 行事予定

各行事の詳細は、OB会ホームページで案内する予定です。

- 8月定例会
 - 日時:8月28日(土) 15:00～
 - 場所: 柏中央近隣センター アミュゼ柏
- 平成22年度千葉県JICAボランティア家族連絡会
 - 日時:9月12日(日) 14:00～17:00 (開場 13:30)
 - 場所: 千葉市生涯学習センター
- 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所ホームカミング・ディの案内
 - 日時:9月18日(土)13:00～9月19日(日)12:00
 - 場所: 駒ヶ根訓練所
 - 内容・問合せについては、OB会ホームページをご覧ください。
- 9月定例会
 - 日時:9月26日(日) 15:00～
 - 場所: 浦安市国際センター (JR京葉線新浦安駅前プラザマーレ2階)
- エッセイコンテスト審査
 - 日時:10月24日(日) 13:00～19:00
 - 場所: 船橋市中央公民館
 - JICA国際協力量中学生・高校生エッセイコンテストの千葉県応募作品の審査員を募集します。
 - ◇ 自宅審査員・・・9月下旬に応募作品100～200部程度をご自宅へ送付します。その中から審査要領を基に作品を選出します。
 - ◇ 集合審査員・・・10月24日(日)に審査会場へ集合して、自宅審査員により選出された作品から千葉県推薦作品を選出します。
 - ◇ 自宅審査員のみ、集合審査員のみ、両方、何れの参加も可能です。また、集合審査も都合のつく時間での参加が可能です。審査員へは謝礼金をお支払します。協力して頂ける方・問合せは下記までお願いします。

info@jocvchiba.net

千葉 OB 会活動参加者募集

千葉 OB 会では、定例会や各種行事の参加や準備等で定期的に集まって活動しています。集会会場は主に船橋市のJR船橋駅と京成船橋駅の間にある「船橋Faceビル 5階」の(船橋市市民活動支援センター打合せスペース)や船橋中央公民館の集会室等を中心に利用しています。集合の時間は土曜日の午後の3時ころより5時ころまでで、OB会の運営内容を話し、その後は会場周辺の居酒屋等での飲み会を行っています。是非お気軽にご参加下さい。

各種行事の日程についてはメールとホームページで案内しています。メールアドレスをご連絡いただければ、定期的に行事案内をメールで送信しますので、以下のOB会連絡用メールアドレス(info@jocvchiba.net :JOCV千葉OB会ホームページに記載)までご連絡下さい。また、ご質問・ご要望などもお気軽に同アドレスまでお寄せ下さい。(広報担当:玉城)